

2019JRDM 活動報告

2019年3月2日(土)に2019 ジャパンレースディレクターズミーティングを開催し、84大会、198名に参加いただいた。海外は8ヶ国からお越し頂き、国際色豊かな会議となった。本年は去る2018年11月13日に発足された日本陸上競技連盟のランニング普及プロジェクト「JAAF RunLink」の事業説明を中心に行われた。

【第1部】

- ・アボット・ワールドマラソンメジャーズ紹介
- ・尾縣貢（日本陸上競技連盟専務理事）
「日本陸連の2020年東京五輪へ向けた取り組み」
- ・早野忠昭（JAAF RunLink チーフオフィサー）
「JAAF RunLink の基本コンセプト」
- ・畔蒜洋平（日本陸上競技連盟新規事業室、JAAF RunLink 総務統括部マネージャー）
「JAAF RunLink の事業概要」

【第2部】

- ・山澤文裕（日本陸連医事委員会委員長）
「我が国における市民マラソンの心肺停止事例と医療救護体制」
- ・パネルディスカッション
「20代、30代女性のマラソン大会への参加について」

パネリスト

- 岡村徹也（名古屋ウィメンズマラソンレースディレクター）
- 上田唯人（走るひと編集長、JAAF RunLink
- 三原勇希（モデル、名古屋ウィメンズマラソンオフィシャルサポートランナー（2015～2017））



・アボット・ワールドマラソンメジャーズ紹介



アボット・ワールドマラソンメジャーズ（以下、AbbottWMM）の各大会から、代表者に参加いただき、現在行っている Abbott World Marathon Majors Wanda Age Group World Rankings（アボット・ワールドマラソンメジャーズ Wanda 年代別ワールドランキング）制度の紹介と、JRDM 参加大会に対する本制度への加盟を呼びかけた。

【ランキング制度概要】

・本制度は 2018 年 9 月の BMW ベルリンマラソンでスタートし、40 歳以上のランナーを対象に、世界中の大会で予選期間においてランキングポイントを獲得し、上位のランナーが Abbott World Marathon Majors Wanda Age Group World Championships への出場権を得ることが可能になる。

・大会として本制度の予選対象大会として参画するためには、陸連公認大会であることが条件となる。

所属	登壇者
アボット・ワールドマラソンメジャーズ事務局 エグゼクティブディレクター	Tim Hadzima
ボストンマラソン チーフエグゼクティブオフィサー	Tom Grilk
VIRGIN MONEY ロンドンマラソン チーフエグゼクティブオフィサー	Nick Bitel
BMW ベルリンマラソン レースディレクター	Mark Milde
BANK OF AMERICA シカゴマラソン エグゼクティブレースディレクター	Carey Pinkowski
TCS ニューヨークシティーマラソン ヴァイスプレジデント	Chris Weiller
東京マラソン レースディレクター	Tad Hayano

- ・尾縣貢（日本陸上競技連盟専務理事）「日本陸連の2020年東京五輪へ向けた取り組み」



日本陸上競技連盟専務理事尾縣貢より2020年東京オリンピックに向けた施策を説明を行った。

- ・日本陸連は「JAAF VISION2017」を策定し、「国際競技力の向上」と「ウェルネス陸上の実現」を2本柱とし、2040年には世界のトップ3、アスレチックファミリー300万人を目標に掲げた。
- ・2020年東京オリンピックへの施策として2019年、IAAF世界リレー横浜大会の開催、マラソングランドチャンピオンシップを開催する。
- ・その他女子リレープロジェクトや、ダイヤモンドアスリートの養成等を行い、2020年、その先に繋がるアスリート育成・強化を行っている。
- ・また、更に中長期的な視点として競技者育成指針を策定し「陸上競技の普及」と「競技者の育成・強化」の両面を見据えた競技者育成の方向性を具体的に示した。
- ・今後指針に基づき、競技会の種目の見直しや、指導者制度等の整備を行う。

各ステージと活動内容

ステージ	年齢	内容
1	0～6歳	楽しく元気に体を動かす（身体リテラシーの育成スタート）
2	6～12歳	楽しく陸上競技の基礎をつくる（身体リテラシーの継続的な育成）
3	12～15歳	陸上競技を始める・競技会に参加する
4	15～18歳	競技会を目指す・楽しみのための陸上競技
5	18歳～	高い（究極の）競技パフォーマンスを目指す
6	～生涯	アクティブアスレティックライフに向けて

- ・ 早野忠昭（JAAF RunLink チーフオフィサー）「JAAF RunLink の基本コンセプト」



JAAF RunLink チーフオフィサー早野忠昭より JAAF RunLink の基本コンセプトについて説明を行った。

- ・ 2018 年 11 月 13 日に JAAF RunLink 発足会見を行い、茂木健一郎氏、堀江貴文氏をアドバイザーに就任いただいた。
- ・ 年 1 回のジョギング・ランニング人口は 2012 年にピークを迎えて以降減少傾向にある状況を改善し 2040 年に 2000 万人にすることを目指す。
- ・ 全国 2000 あるとも言われる大会のうち 200 大会が陸連公認大会であったが、今後より多くの人たちにロードレース、ランニングイベントの魅力を感じていただくため、非公認大会も含めた緩い連携が必要となる。
- ・ その中でも最低限守るべき、安全・安心の基準づくり及び基準を満たすためのサービス開発を行っていく。
- ・ また、ランナーだけでなくより多くの企業にランニング及び大会の魅力を感じていただくために「賛助会員制度」という形で、一業種一社ではない関係性を構築していく。
- ・ 中心的なコンセプトにフュージョンランニングというコンセプトがあり、走ることに関する様々な価値を融合させ、ランナーが魅力的に感じるサービスを構築していく。
- ・ RunLink は大会の記録データをベースに様々な企業と連携を通じてランニングに関する情報を一元管理し、ランナー自身、大会、その他企業、研究機関等に還元することでランニング業界全体の底上げを目指す。

- ・^{あびる}畔蒜洋平（日本陸上競技連盟新規事業室、JAAF RunLink 総務統括部マネージャー）
「JAAF RunLink の活動概要」



日本陸上競技連盟新規事業室^{あびる}畔蒜洋平より、JAAF RunLink の大会に関する取り組みについて説明を行った。

・JAAF RunLink は大会に対する取り組みとして「大会の運営基準づくり」と「大会運営支援」を行うと共に、「JAAF RunLink 加盟大会」と称して、陸連非公認大会を対象に行政、メディア、陸協が主催、共催、協力、後援等に関わる大会の募集を行う。

「大会運営基準づくり」について

- ・ロードレースは基本的に「陸上競技ルールブック」と「審判ハンドブック」に基づいて競技が行われている。ただし、記載事項の対象は競技志向のエリート選手に対する内容であり、仮装の是非等、一般ランナーに対して言及するものではない。
- ・また海外で当たり前に行われている「ウェーブスタート」の方式や、「ネットタイム」の取扱等は統一した解釈の下での運用がされることが望ましい。
- ・従来、上記の事項について日本陸連としては各大会主催者の判断に一任をしてきたが、JAAF RunLink を通じて課題・情報の集約を行い、解釈の統一を図っていきたい。

「大会運営支援」について

- ・過去 JRDM を 3 回開催し、主催者から要望が最も大きい補償内容の統一化について、「日本陸上競技連盟ロードレース補償制度」を新たに構築し、ランナー・競技役員へ対する「傷害事故」「疾病事故」に対応すること、食中毒等の「賠償責任」に関する事項を陸連が定める最低限の基準として設け、陸連公認大会・JAAF RunLink 加盟大会が本制度を利用することが可能とする。

今後、本会のような大会主催者が集まる機会を増やして、テーマごとに課題をディスカッションし、主催者とともに基準づくりをしていきたい。

- ・山澤文裕（日本陸上競技連盟医事委員会委員長）

「我が国における市民マラソンの心肺停止事例と医療救護体制」



日本陸上競技連盟医事委員会委員長山澤文裕より、医事委員会で行ってきたロードレースの心肺停止事例の調査結果及び各種取り組みについて説明を行った。

- ・2004 年以前までは、ロードレース中の心臓突然死が 17 件あり、40 代、50 代に多く見られたが、若年層もいる状況が分かった。
- ・フルマラソンだけではなく 5km 程度の大会においても事故が発生しており、いずれもフィニッシュ後を含むレース後半に多く見られる傾向にあった。
- ・多発する事故を受けて日本陸連の取り組みとして 2002 年に日本陸連より競技者・主催者に注意喚起、2004 年にマラソン主催者向けのセミナーを開催、2013 年～2017 年にマラソンメディシンセミナーを開催することで、安全に関する啓蒙活動を行ってきた。
- ・東京マラソンは 2007 年～2018 年において、心肺停止事例が 11 件、突然死は 0 という状況である。36,000 人に 1 人の割合で発生している状況。
- ・日本全体の心配停止発生率は 64,000 人に 1 人の割合である。（日本陸連医事委員会調べ）
- ・今後の課題としては、国際陸連にて定められた安全基準に関するガイドラインには AED の設置数に関する記載がない状況である。
- ・日本陸連医事委員会としては、参加者 1000 人あたり、少なくとも 2 台の AED を準備し、特に 30km 以降フィニッシュ地点に重点的に配備することを推奨し、今後 JAAF RunLink の基準づくりに反映していく。
- ・主催者だけでなく、ランナーに対して心肺蘇生法の理解促進やヘルスリテラシーの向上等を行い参加するランナー側の意識を高めていくことも重要であることも指摘した。

・パネルディスカッション

パネリスト

岡村徹也（名古屋ウィメンズマラソンレースディレクター）

上田唯人（走るひと編集長、JAAF RunLink クリエイティブディレクター）

三原勇希（モデル、名古屋ウィメンズマラソンオフィシャルサポートランナー（2015～2017））

「20代、30代女性のマラソン大会への参加について」



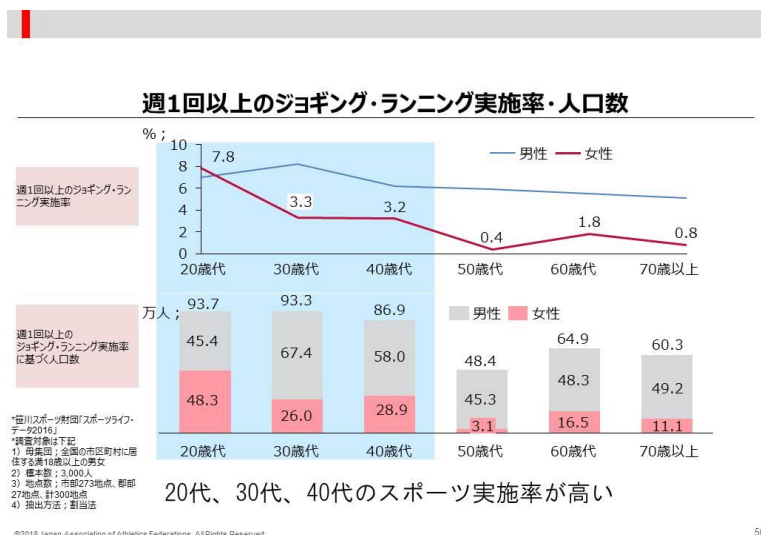
（畔蒜）

・JAAF RunLink はランニング人口拡大を目指すうえで、20代、30代女性をターゲットにしていきたいと考えている。

・マラソン大会の参加者は40代、50代が中心であるが、週1回のジョギング・ランニング人口は20代、30代が最も多く、20代は女性の方が男性より多い状況。

・JAAF RunLink は、スポーツ人口拡大に寄与すべく20代、30代の女性ランナーを更に増やすと同時に、大会に興味を持っていただく仕掛け作りを行っていききたいと考えている。

・20代30代女性に支持される雑誌「走るひと」の編集長上田氏に、モデルでありランナーの三原勇希さん、世界のウィメンズマラソンである名古屋ウィメンズマラソンのレースディレクターである岡村氏によるディスカッションをお願いした。



(三原)

- ・痩せたいという思いから始めたランニングだが、仲間と共に走った写真を SNS に上げることで、ランニングがコミュニケーションのツールとなっていき走ること自体が楽しいと思えるようになった。
- ・また、走ることで気持ちにも良い効果が現れることを実感しているので、辛いことがあったとき等は走るようにしている。
- ・普段はひとりで走ったり、あとは同世代の女性たちのランニングコミュニティを作って、公園や街中をみんなで走ったりしている。距離は大体 3 キロから 4 キロ程度走っている。
- ・大会に出て感じた魅力は、普段のモデル活動だと数字で客観的に評価されることなかなかないが、マラソン大会では数値で結果が出るので、日常では味わえない達成感があり、大会にも継続して参加をしていきたいと思うようになった。
- ・今後、大会に向けて期待することは、本番に向けた練習から一緒にできるような機会があるとずっと本番に向けて楽しくなると思う。

(岡村)

- ・名古屋ウィメンズマラソンでは、世界で女性が一番輝く日、走る女性が扇動して新しい風を吹かせる、というコンセプトを掲げる。
- ・女性が一番輝くゴールシーンから逆算し、荷物預け・着替え・トイレ・スタート、と走る女性をサポートするような仕組み、環境を整えている。
- ・運営側が苦手なマーケティング分野を、スポンサー企業の力を借りることで、大会づくりに寄与している。
- ・地域や、教育機関なども回った経験がある。共有・共感が広がるような行動パターンを作ることが成功への鍵ではないか。
- ・ランニング実施率は現在男女比率で 7 : 3 程度である。欧米は 1:1 の比率となっている。女性ランナーの掘り起こしに成功すると、JAAF RunLink の描くランニング人口の曲線を描けるのではないか。

(上田)

- ・名古屋ウィメンズマラソンは、ポスターのデザインをスポンサー企業であるニューバランスにある程度委ねており、企業のブランドコンセプトを出しやすい大会であるように感じられた。大きなコンセプトがあるからこそ各スポンサーが自由な取り組みができる。
- ・今後、企業に対して裁量がある程度与えられることは大きなメリットであると思うので、名古屋ウィメンズのような企業との関わり方が他のマラソン大会にも増えてくると特色が出てきて面白いのではないかと思う。
- ・クリエイティブに携わる身としては、RunLink を通じて大会のビジュアル等をアップデートして大会の魅力を若い世代にも発信していきたい。

・質疑応答



・青島太平洋マラソンからの報告と提言

今年の青島太平洋マラソンで、ランナーの一人が倒れて心肺停止事故が発生した。その際、参加する別の複数名のランナーが連携して救命措置を施し、一命をとりとめた。事故が発生した場所は、スタート間もなく且つ 2 車線道路のコースが狭い位置であり、ランナーで混雑しており、AED 隊及び救急車が近寄れない状況でもあり、ランナーの協力が無かったら最悪の事態に陥っていたかもしれない。本大会として救命に関わってくださったランナーに感謝状を贈らせていただいた。

ただ、今回、救急車がなかなか近寄れなかった原因のひとつとして、イヤホンをしていたランナーに救護班の声が届いていないこともあり、安全管理の上でイヤホン着用は片方にする等のルール化が必要かもしれない。

Q.マラソン大会でも心肺停止事例が発生したが、数ヶ月前にもマラソン大会で心肺停止事故を起こしていたことが、後で判明した。1 大会主催者として既往歴を把握することは困難であるが、JAAF RunLink のデータベース上で管理は可能か。

A.既往歴までの個人情報データベース上で管理することは容易ではないが、運用面で未然に防ぐことや注意喚起等の方法も含めて検討をしたい。

Q.大会主催者として陸連登録者の確認業務が大変手間で苦勞をしているが、データベースができれば照合ができるようになるのか。

A.本データベースを構築する意義として、主催者の資格審査の手間を省くことを第一に考えたい。それと同時に、現状、ベストタイムが自己申告になってしまっている部分を記録と連携することで、ランナーのスタート位置の精度を上げスムーズ且つ安全な運営ができる環境を構築していきたい。

2019JRDM の内容は下記からご覧いただくことが可能です。

1. アボット・ワールドマラソンメジャーズ紹介

URL : https://www.youtube.com/watch?v=yXpl4kdaf_k



2. 尾縣貢（日本陸上競技連盟専務理事）

「日本陸連の 2020 年東京五輪へ向けた取り組み」

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=MKZfpzlSWpA>



3. 早野忠昭（JAAF RunLink チーフオフィサー）「JAAF RunLink の基本コンセプト」

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=t8AK-bSAxdg>



4. 畔蒜^{あびる}洋平（日本陸上競技連盟新規事業室、JAAF RunLink 総務統括部マネージャー）
「JAAF RunLink の活動概要」

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=DZeUOUhs5m8>



5. 山澤文裕（日本陸上競技連盟医事委員会委員長）

「我が国における市民マラソンの心肺停止事例と医療救護体制」

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=82MsoTKhLlo>



6. パネルディスカッション「20 代、30 代女性のマラソン大会への参加について」

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=hoXXKsLRzKE>

